



TITLE:

2016年10月噴火に先行する長周期パルス(LPP) について

AUTHOR(S):

谷, 協至; 大倉, 敬宏; 山本, 希; 久家, 慶子

CITATION:

谷, 協至 ...[et al]. 2016年10月噴火に先行する長周期パルス(LPP) について. 2017: 共同研究 (一般研究集会) 28K-07.

ISSUE DATE:

2017-02

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/227482>

RIGHT:

2016年10月噴火に先行する 長周期パルス(LPP)について

谷協至¹、大倉敬宏²、山本希³、久家慶子¹

1,京都大学理学研究科

2,京都大学火山研究センター

3,東北大学理学研究科 地震・噴火予知観測センター

まとめ

- 10月8日の爆発的噴火に先立つLPPの周期、振幅、粒子軌跡を分析した。
- 震源位置は火口から南西方向に300m, 海拔0~100m。1994年の水蒸気爆発に先行したLPP震源位置と近く、電磁気探査によって示唆された帯水層の位置とも近い
- LPP2はLPP1よりも長周期であり、火道の状態が変化したことを反映していると考えられる
- 振幅の分布が先行研究で見られたLPTのものとよく似ていたことから、同様のクラック共鳴がそのメカニズムであると推測される